

令和5年度

食品健康影響評価技術研究の二次公募における  
事前評価結果について

令和5年10月  
研究・調査企画会議  
事前・中間評価部会

## 令和5年度食品健康影響評価技術研究の二次公募における事前評価結果

令和5年8月3日から令和5年8月30日まで公募を行い、4課題の応募があった。研究・調査企画会議事前・中間評価部会において、応募内容を審査した結果、下表のとおり、3課題を採択課題として選定し、評価所見等を取りまとめた。

受付番号	1	研究期間	令和5～6年度	
主任研究者	近藤 一成	所属機関	昭和女子大学	
課題名	食品に含まれるトランス脂肪酸の摂取量推計に係る研究			
研究目的概要	<p>諸外国ではWHOのベストプラクティスTFA（トランス脂肪酸）ポリシーが60カ国で導入されて、トランス脂肪酸規制、排除の取り組みが進んでいる。日本では2012年トランス脂肪酸の食品健康影響評価によりWHO勧告基準（エネルギー比1%）未満で健康影響を評価できるレベル以下となり、通常の食生活による健康影響は小さいとされた。現在、本評価から10年以上が経過して日本人の食習慣の変化に加えて、諸外国での食品からのトランス脂肪酸排除の取り組みも世界的に進んでいる。これら現状を踏まえ、現時点での実食品試料分析を行い、最新の日本人におけるトランス脂肪酸や飽和脂肪酸の摂取量推計を行うことで、今後の食品健康影響評価の基礎資料とする。</p>			
評価所見	<p>(総合コメント) 公募内容に沿った研究であり、加工食品等に含まれるトランス脂肪酸を分析し、最新の日本人におけるトランス脂肪酸や飽和脂肪酸の推定摂取量が得られることを期待している。</p> <p>(その他) 利用する国民健康栄養調査が令和元（2019）年調査分とあり、本研究終了時には5年前のデータになってしまうため、最新のデータの利用も検討していただきたい。</p>			
評価点	合計点	研究の妥当性	研究目標の達成度	研究成果の有用性
	16.9/20点	4.6/5点	4/5点	8.3/10点

受付番号	3	研究期間	令和5～6年度	
主任研究者	松本 真理子	所属機関	国立医薬品食品衛生研究所	
課題名	最新のベンチマーク手法をリスク評価に実装するための課題に関する研究			
研究目的 概要	<p>定量的なリスク評価において、健康評価値の根拠となる POD を統計学的に算出することが可能とされているベンチマークドーズ法については国際的にベイズ推定に基づく手法が主流となりつつあるが、行政的な実用例は乏しく、従前の頻度論に基づく手法によるものとの実質的な同等性や有意性等の比較検証が必要である。本研究では我が国においてベンチマークドーズ法を実際に活用していくことを想定して、ベイズ推定において重要とされる事前確率の考え方及びその適用方法の解析や国際的な動向等の調査を行うと共に、実データ等を用いた試行を行うことにより、実用上必要な論点や課題を整理する。さらに、ベンチマークドーズ法をリスク評価に広く適用していくための普及活動も行う。</p>			
評価所見	<p>(総合コメント) 公募内容に沿った研究であり、食品のリスク評価への実践的応用と実用化への検証が進められることが期待される。</p> <p>(その他) 「モデル事例の試行」にあたっては、多くの研究者の参画を得て、可能な限り多方面からの検証が望ましい。</p>			
評価点	合計点	研究の妥当性	研究目標の達成度	研究成果の有用性
	15.6/20点	4.3/5点	3.8/5点	7.6/10点

受付番号	4	研究期間	令和5～6年度	
主任研究者	小山 健斗	所属機関	北海道大学	
課題名	リスク評価のデジタル化：情報収集と解析の自動化による省力化と精度向上			
研究目的 概要	<p>リスク評価は最新の科学的知見の収集と整理、データの統計解析および解析結果の解釈を経て行われる。しかし、情報収集、統計解析および解析結果の解釈には多大な時間と労力をリスク評価者に負担させるため、評価の網羅性や普遍性が懸念されるだけでなく、年間に実施可能なリスク評価の件数は限られる。本研究では、リスク評価の負担軽減を目的とし、リスク評価に必要な情報を自動収集し、統計解析の実行、解析結果の解釈を実行するシステムを構想する。具体的に、1)過去のリスク評価の実施状況の整理、2)リスク評価におけるデータ構造と情報源の精査、3)リスク評価のデジタル化への指針の策定を行う。</p> <p>デジタル基盤によりリスク評価を高度化する。</p>			
評価所見	<p>(総合コメント) 課題と目標を理解し、公募内容に沿った提案がなされている。食品安全委員会の担当部署との連携を通じて、目的とするシステムが出来上がることを期待する。</p> <p>(その他) 研究班の中で食品リスク評価経験者は微生物・ウイルス領域のみのものであるが、広く食品リスク評価全般を対象とするとされている。この研究班で実施するなら、微生物・ウイルス領域のみを対象を絞るか、または、他のハザードの専門家も加えて、幅広い検討を行っていただきたい。</p>			
評価点	合計点	研究の妥当性	研究目標の達成度	研究成果の有用性
	14.5/20点	4.1/5点	3.6/5点	6.8/10点

## 研究・調査企画会議 事前・中間評価部会委員

(◎：座長)

圓藤 陽子	圓藤労働衛生コンサルタント事務所 所長
鬼武 一夫	日本生活協同組合連合会品質保証本部 総合品質保証担当
丸井 英二	人間総合科学大学 教授
宮崎 茂	一般財団法人 生物科学安全研究所 参与
山本 茂貴	食品安全委員会 委員長
浅野 哲	食品安全委員会 委員長代理 第一順位
川西 徹	食品安全委員会 委員長代理 第二順位
◎脇 昌子	食品安全委員会 委員長代理 第三順位

## 評価項目及び評価基準： 事前評価

評価項目		評価基準
I	研究の必要性	<p>研究領域の趣旨に沿った研究内容となっているか評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 食品健康影響評価に関する研究であること</li> <li>2 研究内容の科学的、技術的意義について</li> <li>3 関連する研究の実施状況を踏まえ、独創性、新規性等について</li> </ol>
II	研究の妥当性	<p>以下の点に関する研究体制及び研究計画、研究遂行の妥当性について評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 研究の体制（主任研究者、分担研究者の役割分担）</li> <li>2 主任研究者等の既往の成果、能力</li> <li>3 研究の計画、方法</li> <li>4 研究の実施期間における遂行の可能性</li> <li>5 費用対効果</li> </ol>
III	期待される研究成果の有用性	<p>期待される研究成果の活用性とその有用性について評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 既往の成果、研究手法等を勘案し、研究目標の実施期間内における達成可能性について</li> <li>2 食品健康影響評価への貢献等の可能性について</li> <li>3 研究の成果の発展可能性について</li> </ol>